

2)良食味水稻優良品種候補「上育397号」

上川農業試験場 水稻育種科

1.はじめに

昭和59年の「ゆきひかり」の誕生で、北海道産米の食味水準は一步本州産米に近づき、その作付面積の増加に伴い、北海道産米の評価は年々向上してきている。現在では、食味水準における本州産米との格差をさらに縮めるために、「ゆきひかり」を越える良品種の育成が望まれている。

「上育397号」は晩生の良食味品種「しまひかり」を母とし、早生・耐冷性品種「キタアケ」を父として交配し、鹿児島県で世代促進を図った雑種後代から育成された系統である。

2.特性の概要

「上育397号」の第一の特徴は良質・良食味であり、食味試験結果では「ゆきひかり」に優る。玄米品質も「ゆきひかり」並かやや優り、玄米等級は「ゆきひかり」並である。形態的には、初期分げつ性が旺盛なため穂数が多く、典型的な穂数型である。稈長は「ともひかり」並かやや短く、穂長は「キタヒカリ」並である。生態的には、「ともひかり」並の出穂性を有し、「早生の晩」属する。一方、登熟性がやや劣り、成熟期が「キタヒカリ」並の「中生の早」となる場合もある。障害型耐冷性は「ともひかり」並の「やや強」で、いもち病耐病性は「ともひかり」より強く「やや強」である。耐倒伏性は「ゆきひかり」よりやや優る「中～やや強」である。

3.普及態度

北海道産米の食味水準を「ゆきひかり」並以上に維持するために、主として道央部の「キタヒカリ」の全部および「ともひかり」の一部1こ替えて栽培する。但し、本系統は登熟性、耐倒伏性がやや劣るため、多肥栽培を避けることが必要である。

表1 「上育397号」の育成地における特性概要

形質 /品種名	早晩型		草型	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	登熟 日数	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	芒性	耐倒 伏性
	出穂期	成熟期									
上育397号	早の晩	早の晩	穂数	8.4	9.19	46	61	16.0	722	稀・短	中～やや強
キタヒカリ	中の中	中の早	偏穂数	8.7	9.20	44	64	16.3	611	無	やや強
ともひかり	早の晩	早の晩	偏穂数	8.2	9.19	48	62	17.5	664	無	やや強
ゆきひかり	中の早	中の中	偏穂数	8.4	9.23	50	62	17.4	630	中・短	中

形質 /品種名	障害 型耐 冷性	葉いもち 病耐病性	穂いもち 病耐病性	収量 (kg/a)	玄米 千粒重 (g)	検査 等級	玄米 品質	食味	アミロ ー入 含量	蛋白 含量 (%)	アミロ グラム 最高粘度
上育397号	やや強	やや強	やや強	53.6	22.1	1中	上中下	上中上	20.6%	6.9	509B.U.
キタヒカリ	やや強	中	やや弱	51.7	22.2	1下	上中下	上下中	21.8	7.0	452
ともひかり	やや強	中	中	54.9	21.7	1中	上下上	上下中	20.9	7.4	487
ゆきひかり	強	中	中	54.8	20.8	1中	上下上	上中中	20.8	7.0	474

注)昭和60年から62年の試験結果(中苗、標肥区)による。

表2 「上育397号」の食味官能試験

基準 品種	試験場所	系統名 品種名	外観		香り	味	なめら かさ	粘り	柔ら かさ	総合 評価	試食 回数
			白さ	つや							
ゆ き ひ かり	上川農試	上育397号	0.39	0.54	-	0.41	0.55	0.72	0.70	0.69	7回
		キタヒカリ	0.22	0.05	-	-0.21	-0.35	-0.33	-0.40	-0.46	6回
	中央農試	上育397号	0.28	0.47	-	-	0.44	0.63	0.47	0.72	4回
	道南農試	上育397号	1.17	1.00	0.17	0.55	0.73	0.50	0.50	0.82	1回
	普及所	上育397号	0.84	1.01	-	0.65	0.66	0.69	0.36	0.74	17箇所
日本晴	上川農試	上育397号	0	0.07	-	0.16	0.14	0.13	0.04	0.29	3回

注)「日本晴」は滋賀県農試産